

令和7年度

学 校 評 価 表

(中間評価 ・ 最終評価)

東広島市立乃美尾小学校

学校教育目標	未来に向かって 学び続ける	経営理念	<信頼される乃美尾小教育の創造> 【めざす学校像】 あいさつの響くわくわく感のある学校～楽しい・やさしい・元気な学校～ 【めざす児童像】 豊かな感性をもち、のびゆく子 「最後まで 粘り強くやりぬく子」人や環境を大切にし、感謝できる子」「自分や友達の命を大切にできる子」 【育てたい資質・能力】『言葉の力』『思考力』『主体性』『感性』
--------	---------------	------	--

評価計画						自己評価					学校運営協議会による評価		改善方策			
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策		
							9月	月								
確かな学力	1	○主体的に学ぶ児童の育成	○基礎学力の定着 ○「わかる」楽しさを感じることのできる授業づくり ○読書活動の推進	・計算コンテストの実施による基礎学力の定着と朝会での認知機能の強化	・算数科単元テストで、70%以上を達成した児童の割合	1～3 90%	1～3 84%	93%	93%	2	・低学年では、目標値を達成することができなかった。個に応じた支援を充実させ、学習内容を確実に習得できるようにしていきたい。	B	・目標値を達成できるよう、授業に様々な工夫をしているのがよく分かる。楽しいと思えるような工夫を、	・協働的な学びを多く取り入れることで、友だちと関わりながら課題解決する楽しさを感じながら学ぶ授業を仕組んでいく。		
				・個別最適な学びや協働的な学びを取り入れた主体的な学びの推進	・算数の学習で、「分かった」「もっとやりたい」と感じることができた児童の肯定的評価の割合(アンケート)	4～6 85%	4～6 89.7%				105%		・読書記録及び貸出量の集計による読書量は、高学年を中心に伸びていない。図書委員会を中心とした読書の啓発、担任が図書室へ連れていく等、本に触れる機会を増やしていきたい。		・今年度は協働的な学習の様子が見られる。	・2週間に1回程度、担任が図書室に連れていき、読書をする環境を作る。
				・発達段階に応じた指導方法の工夫や教職員間での協働的な教材研究による授業改善	・問題ができたとき楽しいと感じることができた児童の肯定的評価の割合(アンケート)	85%	75%				88%		・子供が主体的に本を読みみたいと思う仕組みづくりの検討を。		・司書との連携を図り、貸出冊数を掲示し(学年ごと一人当たり)、見える化することで、意欲をもたせる。	
				・学校図書館の充実と図書委員会の活動や活性化による読書に対する意欲の向上。	・読書記録及び貸出量の集計による読書量低学年70冊、中学年60冊、高学年50冊	85%	73.5%				86%		・つまづいている児童への具体的手立てや支援の工夫を。		・毎週水曜日の朝時ををはなまる朝会から読書朝会に変更し、読書をする機会を増やす。(企画検討課題)	
豊かな心	2	○人や環境を大切にし、周りの人やものに感謝できる児童の育成	○保護者・地域と連動した挨拶運動の推進 ○基本的生活習慣の確立 ○創造的・支持的風土の醸成	・朝会や集会時における確認と評価	・元気なあいさつ、返事ができる児童の割合(児童アンケート)	85%	85.6%	101%	101%	3	・児童アンケートでは、あいさつの肯定評価が90%を超えている。また、保護者アンケートも89.9%と高く、あいさつしていると感じている保護者も多い。しかし、児童アンケートで「自分からあいさつ」と「返事」に関しては目標値を超えているものの、83%と低く、校内でもよくあいさつできている児童も固定されているという課題がある。あいさつ運動やあいさつ名人の表彰などで、もっと自分からあいさつできる児童を増やしていきたい。	B	・あいさつは、外でも家でも自ら大きな声でできるようにする。	・あいさつに関しては、これから児童会執行部や中学校などとも連携し、継続的に取組を行っていく。また、あいさつ名人表彰の取組で、自分からあいさつできる児童を増やしていく。		
				・児童会や地域のボランティアからの前期・後期のあいさつ名人の表彰	・はきものをそろえていることができた児童の割合(はきものそろえチェック)	90%	92%				102%		・自己肯定感を高める取組として、学級で梅の会などで今日よかった人みつけを設定するようにした。また、掃除の反省や全校での下校の場面で、がんばっている児童を認める声かけを行うと職員が確認をした。後期からこの取組をすすめていき、児童が自信をもって生活できるようにしていきたい。		・目標達成が見えてきている。あいさつが定着している。	・児童自らが主体的にあいさつを行っているか分析も必要。
				・「黒瀬・東広島スタンダード」の定着(小中連携の取組の活用)	・「あいさつや返事ができている」「学校や家庭の約束(きまり)を守って生活している」(保護者アンケート)の肯定的評価	80%	89.9%				112%		・登校時はできている。下校時も頑張してほしい。		・学年を超えた関係性の中でもよい形で活動ができている。	
				・学級活動、児童会活動の充実	・「頑張った」「人の役に立った」「友だちと協力して活動できた」の肯定的評価(児童アンケート)	80%	84%				105%		・あいさつができるようになった反面、言葉遣いが気になる。		・言葉遣いを放っておかず、その場をとらえて指導していく。	
健やかな体	3	○命を大切に、安全な行動と、健康でバランスの取れた体力・運動能力を向上させようとする意欲と実践力の育成	○基礎体力の向上 ○外遊びの励行 ○安全意識の高揚	・体育科授業の工夫	・縄跳び前跳び(低…30秒間、中…1分間、高…1分30秒間)跳び続けられる児童の割合	90%	59%	65%	65%	2	・6月、7月、9月の3回実施段階で前跳びは59%達成、後ろ跳びは43%達成し、達成者は玄関に掲示を行った。暑さもあり、チャレンジウィークは前期には実施しなかったもので、後期は11月と1月にチャレンジウィークを実施する。また、縄跳びカードを全校共通にすることで体育科の授業に取り入れ易くなる。	B	・暑い時、無理に達成値を考えなくてもよい。	・縄跳びカードを使ってチャレンジウィークを実施するとともに、全校統一した体育科授業の取組にする。		
				・体育朝会及び遊び朝会の工夫	・縄跳び後ろ跳び(低…15秒、中…30秒間、高…45秒間)跳び続けられる児童の割合	75%	43%				57%		・縄跳びの達成値が低いのは潜在的な基礎体力不足なのか。		・1月からの体育朝会の後半を長縄にし、遊び朝会や授業でも取り組む。	
				・縄跳びチャレンジウィークの実施	・休憩時間以外で遊ぶ児童の割合	90%	72%				80%		・体育の特長化に向けて体育科に縄跳びを優先してはどうか。(長縄や縄跳びカードを利用して)		・元気に体を動かし、体力づくりとチャレンジに對しての達成感を大いに感じてほしい。	
				・委員会による外遊びの啓発	・右側歩行ができる児童の割合(児童アンケート)	80%	74%				92%		・個々の体力向上の意欲を向上させる必要がある。		・様々な工夫をして、身体を動かす機会を維持していきたい。	
信頼される学校	4	○地域とともにある学校づくりの推進	○保護者・地域連携と学校の取組の積極的発信	・コミュニティ・スクールの推進による体験活動の充実	・地域協力隊による体験活動の実施、各学年前期・後期に各1回以上	100% 90%	100% 99%	100% 110%	100% 110%	3	・どの学年も、前期に1回は体験活動を行うことができた。後期に向けても、早めに地域協力隊と連携し、体験活動を仕組んでいく。	A	・体験活動が生かされている。継続してほしい。	・後期の体験活動も仕組んでいく。		
				・月1回のたより発行とHPの更新による地域や保護者へのタイムリーな情報発信	・保護者アンケートの肯定的評価が90%以上								・月1回のたよりで様子を確認できる。学校が身近に感じられる。		・引き続き、情報発信に努める。	
			○働きがいのある職場づくり	・退校時刻と時間外勤務短縮の遵守	・相談しやすい職場であると答える教職員の割合85%以上	85%	90.9%	107%	107%	3	・退校時刻を意識した声掛けを行うことができた。また教職員も時刻を意識して校務を行った。	A	・相談しやすい職場が一番大切である。継続してほしい。	・ICTも活用し、情報の共有を行い、より相談しやすい職場を目指す。		

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

達成値/目標値を百分率で表示す

■自己評価
4...目標を上回って達成
2...目標をやや下回って達成
3...目標どおりに達成
1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)
A...とても適切である
C...あまり適切でない
(N...判定できない)
B...概ね適切である
D...全く適切でない